梨……共……進……会

横越勢、上位を独占

藤崎氏等が一等入賞

新潟地区の特産、梨の共進会が、新潟地区梨振興協議会の主催によって、今年もさる九月二十日から三日間にわたり小林デパートで開かれました。

梨樹農家が、L、C、D（安くてきれいでうまい）運動の一環として丹精こめたすばらしい廿世紀梨一六五点が出品され、審査員を戸惑いさせるほどみごとなできばえでした。最高位の特賞には亀田の笠原氏がなり、一等には本村の藤崎氏等三名が入り、横越勢が今年も上位入賞者を大勢だしました。

入賞者の表彰式は、二十一日の午後一時から同会場で、渡辺新潟市長、佐藤参院議員石塚県会議員等の来賓をむかえて行なわれました。

なお、入賞者は次のとおりです。

特賞　笠原　平太　亀田
一等一席　藤崎　富術　横越
一等二席　井越　潔　〃
〃　三　遠藤　広次　〃
〃　四　熊谷　辰一　亀田
二等一席　渋谷　富次　横越
〃　二　熊木　惣術　〃
〃　三　吉田キクイ　亀田
〃　四　清水　久術　〃
〃　五　小島　チエ　〃
〃　六　渋谷　ヒッ　横越
〃　七　堀川幸一郎　新潟
〃　八　熊谷　繁　亀田
〃　九　押木　征一　〃
〃　十　佐藤　又蔵　横越
外横越地区の三等入賞者
三等　白倉　伸　〃
〃　飯野　博　〃
〃　植木　博栄　〃
〃　山田　増夫　〃
〃　三沢　秀雄　〃
〃　原　重夫　〃
〃　白倉　克彦　〃
〃　仲村　秀文　〃

みごとな廿世紀なし

新潟県勤労者美術展

第二十四回
新潟県勤労者美術展を次により開催しますので、勤労者の皆さん、ふるって応募してください

記

一、会期
昭和四十九年十一月二日から十一月二十四日まで

二、会場
新潟県美術博物館（県民会館三階）

三、種目および規格
○第一部
日本画（1.0×1.5以内）
○第二部
洋画（50号以内）
○第三部　彫塑
○第四部　工芸
○第五部　書道
○第六部　写真（白黒、カラーとも四ツ切）
㊟作品には額縁をつけるか表装、または仮装すること、写真は台紙（板目表紙）に貼ること。

四、応募資格、応募作品
県内の事業所（官公庁、学校含む）に勤務するもので応募作品について、製作を職業としないもの、未発表のもので一人各種目につき二点以内。

五、応募手続
所定の申込用紙に十一月二日まで労政事務所に申込むこと。
○申込先
新潟市白山浦一の六一四
新潟労政事務所
電話60〇七一七番

六、作品の搬入搬出
○搬入
県美術博物館へ十一月十九日午後一時～午後五時
○搬出
十一月二十四日午後三時～午後五時まで搬出のこと。

七、その他
詳しいこと等は、県労政課、又は労政事務所へ照会ください。

家庭における金銭教育

こづかいの与え方 No. 2

勉強におだちんは禁物

次に〝おだちん〟について一言ふれておきたいと思います。

「よく勉強したから、〝おだちん〟をあげましょう」もし、こういうことを言うお母さんがいるとしたら、こどもはどういう傾向に流れていくでしょうか。

「お母さん、勉強したから〝おだちん〟ちょうだい」、しまいには「〝おだちん〟くれなければ勉強してやらない」ということになってしまうケースが多くなると思います。

勉強はひとに頼まれてするものではなく、こども自らが進んでやらなければ意味がありません。したがって勉強することは、ひとから報酬をもらってすることでなく、当然なすべきことであると考えなければならないと思います。

家事への協力は当然

また、家事への協力に対して〝おだちん〟を与えるケースもかなり多いようです。

糀みがきがいくら、皿洗いがいくら、お使いがいくらと決めて、お母さん方は、安易な気持で〝おだちん〟を与えておられるようですが、これも勉強の場合と同じことがいえると思います。しまいには「〝おだちん〟くれなけりゃ……」という結果になる場合が多くなるでしょう。

もっとも、家事を手伝った場合の〝おだちん〟については、概にいけないとは言えませんが、むしろ進んで奉仕するようなこどもにしつける方が大切ではないか、と思います。

働いたのだから報酬を与えるのは当然だという考え方と、こどもだって家族の一員なのだから、家事を手伝うのは当然で、それに対して報酬などを与える必要はないという考え方と、賛否両論あろうかと思います。

私どもは、どちらかといえば後者の意見に賛成で、安易に〝おだちん〟を与えることは、こどもを甘やかすことになり、せっかくのこどもの純真な気持を台なしにしてしまうことが多いのでないでしょうか。

もっとも家事を手伝った場合の〝おだちん〟は、一概にいけないとは言えませんが、むしろ進んで奉仕するようなこどもにしつける方が大切ではないか、と思います。

婦人検診

〝検診をうけて安心を〟

毎年実施しています婦人検診（子宮がん検診）を左記により計画しましたので、ぜひこの機会に受診されるようお勧めします。

日時　十月十八日
　　午後一時三十分より
場所　横越公民館

狂犬病予防注射

おしらせ

生後三か月以上の犬は、毎年一回の登録と、春秋二回の注射をうけなければなりません。あなたの地域は次の日程で実施しますから近くの会場で必らずうけてください。

犬の飼い主は、登録と予防注射をしないでいると、三万円以下の罰金。また犬を放し飼いにすると一万円以下の罰金または科料に処せられます。

なお、当日は混雑しますので犬を制御できる人がつれてきてください。

狂犬病注射日程

日	時間	会場
10月23日（水）	10.30～11.30	沢海稚蚕飼育所前
	12.30～13.30	小杉農協支所前
	10.30～11.30	木津水戸口集会所前
	12 30～13.30	役場前

◎手数料　つり銭のいらないように願います
予防注射400円（春の注射をうけた場合）
鑑札のない犬700円（印鑑持参ください）

交通安全入選作文

よっぱらい運転

横越小5年
神田浩美

わたしがあの事故を見たのは、去年の秋でした。とても寒い夕方でした。

なにやら外で〝ガッン〟と、すごく大きい音がしました。そのころは、わたしの母がまだ生きている時でした。とつぜん母が店からわたしのいる部屋に顔を出し、ねいちゃん事故だよ、見に行ってみな」と、どぎまぎと早口で言いました。

わたしは寒かったのでわた入れを着て、外へ出ました。事故のあった方を見ると、人だかりがしていました。二十人くらいいたでしょうか。集まっている人たちは、口ぐちに「かわいそうにな」とか、「よっぱらい運転だってよ」。「酒をのんで、運転するやつがあるか」などと言っていました。わたしは、集まっている人たちをかきわけて前にでました。

そこには、白いかみのおばあさんがあおむけになって、両手をひろげ、目をつぶってたおれていました。だれかが「早く救急車を」と、大声でさけびました。お母さんは、おろおろしながら電話をかけました。

おばあさんをひいた車にいっしょに乗っていた人は血を見て気持ちが悪いのかたった。けれどもその途中で息がたえてしまったそうです。事故で死んだおばあさんの家のおじいさんは、三日ぐらいとおして花をとりかえにきました。

あとで知ったのですが、おばあさんは、ちゃんと歩道を歩いていたのだそうです。わたしの家の店の前を通ってまちがえてつっこんできた車のために、ちょうど店の前を通っていたおばあさんが、運悪く車にひかれ、五メートルほどひっぱられて、歩道に頭をぶつけて、ずがいこつをわって死んだのだそうです。

その事故のあったところをつぎの日の朝、通るのがいやでした。気味が悪くてとてもいやでした。ここで一人の人が死んだと思うとても気軽に通れませんでした。だから、なるべくそこを通らないようにしました。そればかりか、そこを通るのがいやな気さえしました。小さな子は、「あそこの店、こわいからいかない」というしまつです。

こんなふうに、わたしだけでなく、どの人も事故のことを考えて、気持ちの悪いおもいや、いやなおもいをしているようです。

自分の家族でもないのにこんな気持ちになるのですから、家族は、どんなに悲しいつらいおもいをしたでしょう。こんなことを考えるだけでも、交通事故は、なくしたいものだと思います。

わたしは、このできごとで、事故がどんなにおそろしいものかを知りました。事故で死んだ人の家族たちのかなしみを救うには、ぜったい事故をなくさなければだめだと思います。わたしも事故にあわないために、これから気をつけたいと思います。

おめでた

（8月の出生）

新生児	父親	地区
安彦　秀樹	正雄	饒山
別所　信悟	信重	沢海中
佐藤　孝禎	孝一	横越中
市野瀬清子	潔	饒山
市村　克史	義行	横越中
鈴木　義信	義信	小杉下
渡辺　正英	英夫	二本木中
横山　賢二	昌夫	横越中
荒井　美香	林蔵	沢海下
長谷部　昭	喜一	川根谷内

おくやみ

（8月の死亡）

故人	年令	地区
高橋　正幸	正雄	横越上
斎藤　秀和	幸一	二本木中
斎藤　好和	幸一	二本木中
串田　和成	貞俊	藤山
石倉　新吾	健吉	駒込
今井　明子	文雄	木津中
五十嵐　智	国男	横越中
原野健太郎	耕二	横越中
遠藤　直樹	春男	小杉上
和澄吉太郎	駒込	
原　ツイ	二本木下	
五十嵐キヨノ	沢海上	
田中　スエ	沢海下	
諸橋　イク	沢海中	

ミヨ	86	沢海中

横越村の人口

（49年8月末現在）

総人口 8,106人	男3,959	女4,147
世帯数 1,753世帯		
8月の動き	出生19 死亡6	転入12 転出4

◎今月納期の村税は国民健康保険税　四期ですからお忘れなく